

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通信を配布します。



《写真説明》 5月6日

アウトドア：花見ウォーキング

近隣の川上りハイクを数キロ行った先、森林総合研究所の樹木園の一角に桜場並木がありました。

～「外に出てみる科」本年第1回

INDEX

- P1: 巻頭言～
- P2: ヒューマントラスト/
スクール動向、普及活動、他
- p3: 会費納入、グッズ提供など
- p4-5: 「NPO 年次報告、方針他」
- p6: 月寒スクール新学期
- p7: ↓ 行事写真他
- p8: 時事、カレンダー、後記、他

「人が生きる経営に挑戦」

㈱和光・代表取締役会長 田中 傳右衛門

一つの言葉“人を生かす経営”について中小企業家同友会(以下同友会)で、一寸した論議が起きています。“人を生かす経営”とは同友会の先達が40年以上前に経営者と社員との関係を、中小企業における労使関係の見解としてまとめた小誌の題名です。それに波紋を投げかけたのは昨年8月、同友会の機関紙“中小企業家しんぶん”に掲載された日本教育学会元会長、大田堯先生の一文です。

大田先生は、「経営者が上から目線の“人を生かす経営”では本物の会社経営とはならない。社員に目線を合わせた“人が生きる経営を!”と投げかけてきたのです。一方では、経営者の仲間達が「経営者は会社経営に全責任を持っているのだから“人を生かす経営”で良いのではないか」と言うのです。“企業は人なり”です。

中小企業家にとって人材教育は事業の継続・発展にとって最も重要な事です。真剣な本物の共育が求められるのです。それを間近に拝見したのが昨年2月26日に亡くなった鈴木秀一先生のお姿です。先生は北海道自由が丘学園で生徒さん一人ひとりから「秀さん!」と呼ばれながら国語を教えていました。まさしく生徒さんと目線が合った“人が生きる共育”をしていました。それには鈴木先生の人間に対する大きな愛情があったのだと思います。私たち中小企業経営者もそれに近づき“人が生きる経営”に挑戦し、本物の社員共育をしていこうと思っています。

[筆者はNPO 自由が丘の副理事長で、(学)共育の森学園再建以来の理事の一人です。]

北海道中小企業家同友会の役員も長年務められる中で今回のレポートを頂きました]